

相応しい礼拝について

ホープ・チャペル所沢

第一コリント人への手紙 11:1-34

「ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。」（第一コリント11:26、新改訳）

序文

第二世紀ローマ帝国で、信者迫害の手段として、「赤ん坊を殺して、その血を飲んでいる」という信者たちに対する虚偽が広まったため、ジャスチン・マルチルというクリスチャン指導者が当時の帝王に弁明をしました。この「*The First Apology*」（西暦 150 年）という書の中で、彼は第二世紀に行われた礼拝と聖餐式に関する以下の事がらを書きました。1) 人々は甦りと再創造の日にあたる日曜に、礼拝のために集まっていること。2) 公の礼拝では御言葉の朗読と説明の後に聖餐式をおこなっていること。3) 指導者は人々に、日々の生活においてキリストに見習う者となるよう教え励ましていること。4) 全員で祈っていること。5) パンと葡萄酒のために、祈りと感謝が捧げられていること。6) 欠席者のためにもパンと葡萄酒が用意され、届けられていること。7) 未亡人や孤児、病人や牢に入れられた信者、旅人や困っている者たちの必要を満たすために献金が集められ、分配されていること。以上 7 つの、礼拝と聖餐についてのことを私たちは学ぶことができます。

1. 私がキリストに見ならうように、私に見ならってください。 (1-16 節)

ア) パウロは自分自身を、キリストに見ならう者、また神の不思議を管理する者と見なした。

イ) 私たちは礼拝の中で、地味的な権限ではなく霊的な権限について、関心を持つべきです。

2. 私たちの礼拝の中に備えられた、御言葉と主の食卓。 (17-26 節)

ア) 主の食卓は、一致、記念、和解、礼拝、そして希望のための場所です。

イ) 主の食卓は「主が来られる（再臨）まで、主の死を告げ知らせるのです。」

3. 主の食卓での相応しい礼拝とは何でしょう。 (27-34 節)

ア) 私たちの主が払われた犠牲について、より深い理解を持つべきです。

イ) キリストの肉体と霊的なからだについての理解を、私たちはさらに深めるべきです。

私たちの祈りと学び、話し合いと応用のために

1) 1～16 節を読みましょう。あなたの集う礼拝において、相応しいと思われる振る舞いはどの様なものですか。

2) 17～26 節を読み、あなたの家庭やミニチャーチの中で聖餐について教え、行いましょう。

3) 週の間にブル 10:1-39 を読み、あなたがそこから学んだ事を誰かと分かち合いましょう。

結論

霊とまことによる礼拝は、公のものであってもプライベートであっても、私たちの心の状態と、その内容が重要といえます。私たちは心から、主の犠牲と、「キリストのからだ」であるキリストによって贖われたすべての人々を認めなければなりません。そして、礼拝の内容は、祈りや賛美と同様に、御言葉と主の食卓を通して、神様の物語のすべてを宣べ伝えるものである必要があるのです。